



## 第33回 日韓技術士会議（韓国）報告

技術士（建設部門） 市村 一 志

### はじめに

第33回日韓技術士会議は、平成15年10月6日（月）に韓国江原道東草（ソクチョ）市で開催されました。東草市は、韓国の東側の日本海に面し、北朝鮮国境から南へ約50kmに位置します。数年前、北朝鮮軍人が小型潜水艦で韓国に上陸し、戦闘で1、2名逃がした事件が有りましたが、正にこの付近のことです。

会場は、東草市街地から少し離れた丘の上であり、家族でレクリエーションできるリゾート地になっていて、キャンプ場、温泉、ゴルフ場、ハイキングコース等があります。宿泊施設は、自炊できるように設計されていて、床がオンドルでガランとした何もない部屋に、蒲団を自分で敷いて寝るというシステムには少し戸惑いを感じました。



東草市街地 庶民的な港都市 10万人  
米子市と姉妹提携

### 会議の概要

両国の技術士の参加者は、日本側62名、韓国側64名、更に日本側婦人12名、韓国側夫人37名の計175名の方々が集まって進められました。開催地がソウルから直線距離で160km、バスで約5時間と離れて

いるため、日本各地から来る技術士はバラバラに集合し、東北支部、北陸支部の方達は、前日の夜中0時近くに到着したようでした。

会議の次第は次のとおりです。

| 時 間         | 主 な 内 容  |
|-------------|--|
| 09:00~09:40 | 式典<br>両国技術士会会長挨拶<br>両国技術士会委員長基調報告  |
| 09:50~12:00 | 合同シンポジウム<br>韓国側—韓日中の産業技術市場と相互協業の分野<br>日本側—東北アジアの科学技術と文化交流  |
| 14:00~17:00 | 分科会シンポジウム<br>① 物流、リサイクルと環境<br>② 建設の安全<br>③ 技術士資格制度、APEC エンジニア、中国の技術資格制度等<br>④ 資源とエネルギー<br>⑤ 英語討論 |
| 18:00~20:00 | 晩餐会  |
| 09:00~17:00 | レディース・コース<br>両国婦人観光<br>東草、江陵、雪嶽山等  |

合同シンポジウムのテーマは、両国が何度もやり取りして、これからのわれわれ技術者が、中国を含めた東北アジアの技術発展の為に、リーダーシップを取るべきとの意識から設定されました。

今回の分科会は、特に第1分科会のテーマが新しく設定され、全体的に活発な議論が交わされました。

総括として、韓国技術士の通訳が素晴らしく、スムーズに進行し、満足したことは言うまでもありません。

### 統一展望台

翌日の見学会は、バス3台で北の国境に向け、天

候も快晴でウキウキとした気持ちで出発しました。間もなく見えてきた海岸には、砂浜、岬等全てに延々とバラ線が張ってあって、北からの上陸を防ぐということです。国境に近い道路には、いたるところに両側にコンクリートの大きなブロックが積み上げられ、いざと言う時に崩して塞ぐためと聞かされました。ピンと張りつめた緊張の空間です。



雪岳山 外国観光客は60万人訪問

雪岳山(ソラクサン)は、東草市から約30分にあり、年間350万人の観光客が訪れる名所です。修学旅行生であふれかえっていました。穏やかな光景です。国境の統一展望台は、検門所を通り抜け、人里離れた荒れた自然の中の小高い丘にありました。



展望台から見る北朝鮮 遠くの山は北朝鮮側

風景はあくまでも美しいのですが、私達見学者以外どこも人の気配がしない、冷たい空間です。よく見下ろすと、北朝鮮に向けて一本の道が建設中です。完成して人々や物資が行き来する事になった時、この空気がどのように変わるのか、再確認してみたいくなります。

俳句を作ってみました。

「国境(くにさかい) 足元にそっと ちちろ虫」

### 水原(スウォン)一人旅

水原市は、ソウルから南へ約40km、鉄道で約60分の所にあるソウルのベットタウンです。1794年、李朝22代の正祖がソウルから遷都するため、この地に城壁や楼門を建設しましたが、実現し得なかった古い歴史をもつ都市でもあります。

地下鉄を庁舎前で乗り、乗り換え無しで鉄道につながり着いた第一印象は、巨大な再開発駅の建設にぶつかり、新しい顔を作りつつあるようです。



水原駅の新しい顔

訪れた日は、韓国建設記念日がつながって3連休の初日で、人出が一杯市街地に溢れていました。①センターには、地元の奥さんが2、3人いて、城壁までは2kmぐらいと言うので、歩くことにしました。やっと丘を登って見えたのが次の写真です。



頂上付近の城壁 御影石 右側が城内

たくさんの子供たちが遠足で昼食を取っていました。何を食べているのかと思って覗くと、日本で見る海苔巻の様で、勿論、中の具は違うようです。

城壁は、全長5.5km有りほとんどが残されていて、新しいまちづくりとうまく共存していると感じました。

来年の日韓技術士会議は、米子市で開催されますので参加をお願いし、報告とさせていただきます。